

## ■令和2年3月12日 小櫃川キندان川

房総の沢は冬の沢だ。理由はヒルが大量に発生するらしい。確かめたことはないが確かめるつもりもない。冬でも装備次第で快適に遡行できるし夏は他の沢へ行きたいからである。

毎年のように房総を訪れる沢の一つが小櫃川キندان川である。江戸時代に房総特有の溪谷と川廻しという、なんでも蛇行した川を人の手で直線に結び農地などに転用する工法だそうだ（ウィキペディア調べ）。

車で行くには、ナビを七里川温泉に設定をして、温泉を越えてからは札郷（フダゴウ）トンネルに向かう。トンネルを抜けてすぐの空き地へ車を止めて沢の用意をする。川に向かうコンクリートの階段を降りるとすぐに入渓点だ。川は浅くてくるぶしが浸る程度だ、川底は幾重にもまるで竜の鱗のようになっているのが特徴的である。ただ気をつけないと所々ピットフォールがあるので下をよく見ながらあるく。沢靴はフェルトにした。フェルトがよく川底に効き快適に歩くことができる。

降りてからすぐに川廻しの洞窟をみる  
ことができる。結構なおおきさで多くの  
水を滝のように吐き出して8mほどの滝  
となっている。頑張って登れなくもない  
が落ちるとドボンなので遠慮する。



二股あたりまで来て、防水の沢ソックスなのに足がぬれている感じがする。長く使っているので防水効果がなくなったようで、水がしみてきた。さほど冷たくはないので十分我慢できる範囲だ。

これが真冬なら即時退散していただろう。お湯を沸かしてコーヒーをテルモスに入れる、ゆっくりとした時間が流れる。七里川温泉に一泊するつもりなので、時間はたっぷりある。ゆっくり行こうと自分に言い聞かせる。

とにかく蛇行が多い川だ。同じような景色が続いて飽きてしまった。さらに小腹も空いたから“適当な場所でもかなり早い昼飯をする。さすがに硫黄臭のする水は使う気はなく持ってきて水を温めてラーメンを作って食べた。平日のさらにマイナーな沢なので誰もいない。時々鹿なのかキョンなのか分からないが鳴き声がきこえてくる。

左右に岸に野草がないかなどと道草をしながら、ほんとにゆっくりとピットフォールに気をつけながら遡行すると、V字型にえぐれた海溝のような場所に出る。これも房総沢特有だ。この景色を見たくて度々訪れてしまうのである。



ただ、去年の台風のせいか倒木が多い。面倒な倒木をクリアしながら進むこととなった。だんだんと川幅というよりは左右

の岸壁が狭くなってきたら、かなりひどい倒木群杉の木やブナの木などが折り重なっている。なんとか抜けたかと思ったが倒木のせいで水が堰き止められており、深い水たまりとなっていた。せつかくここまであまり濡れずにすんだと思ったがやむを得ない。我慢して水につかる。腹ぐらいまでの深さとなっておりさらに底は泥となっている、這々の体でなんとか脱出した。びしょりである。ほんと冬でなくてよかったと痛感した。

終了点は赤いリボンがついており左手の仕事道を登ることとなるが、これまた台風のせいか踏み跡が全くない。所々道しるべがあるのでそれに従う。T字にでて左手に行くのだが、ここから先はリボンも踏み跡も全くなっていた。しょうがないのでGPSを確認して支流の沢に降りることにした。地形図上では滝もないしロープも持参してきているので不安なく下降するとほどなく民家を見つけることができた。

車まで戻り装備を干していた。やることもないので車にもたれかかっていると、通過する車が減速してこちらを見ている。何のことが最初は分からなかったが、ご老人が補助輪を押しながら話しかけてきたところでは、まるで物売りのように見えたらしい。

このご老体だが、ちょうど詰めにつかった山所有者とのこと。1時間ほどいろんな話をしてくれた。ご老人とわかれて七里川温泉に着く。硫黄温泉にたっぷりつかりここの宿自慢の囲炉裏で食事をとる。途中林道で見つけた蕨の藁や持参してきた肉などを焼き至福の時を過ごした。

#### 《遡行時間》

札郷トンネル（駐車地点）→入渓点 7:11

丹生へ点→V字溪谷 →10:14 凄くゆっくりペース

V字溪谷→終了点 →10:58 すごくゆっくりペース

終了点→林道 →11:48 道迷い有り

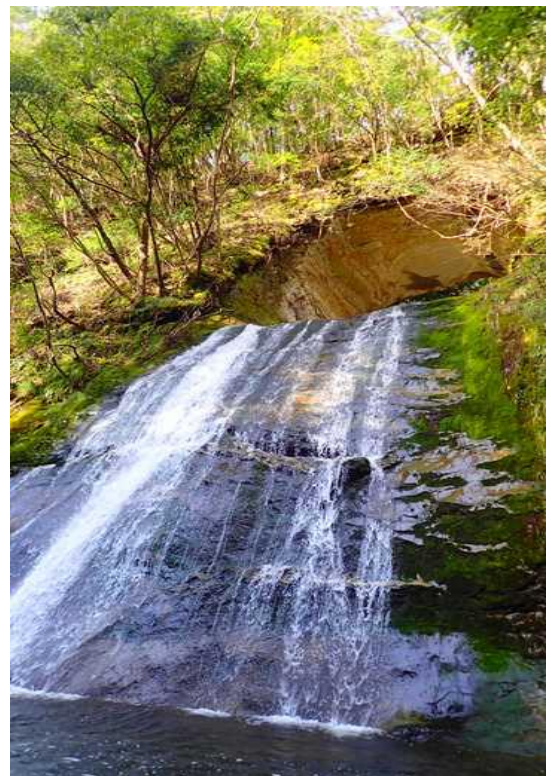
林道→札郷トンネル（駐車地点）→12:32 途中道草有



## ■13日 小糸川三間川

翌日早めに出ようかと思ったが、朝湯をつかりのほほんとしている内に結構な時間が過ぎてしまった。宿の支払いを済ませて次なる沢へ向かう。多少迷ったがなんとか車を駐車して装備をつける。今日はこの沢が終わったら昼飯は海鮮丼と決めていたので、サクサクと終わらせることにする。

入渓点に入ると昨日のキンダン川と同じような景観だったが、すぐに川廻しの滝である“開墾の滝“に着く。大きな洞窟からたたえる水が壮観であった。本来はこの滝は登らずにぐるっと回り込むのがよいようだが、滝を過ぎてしばらく行くとフィックスが張ってあった。フィックスはあまり使いたくないが、出だしただけ利用して登ることにした。これは二人以上ならロープを出し方がよいなあなどと思いながら滝の落ち口についた。短い大きな洞窟になっており昨日の滝よりも壮観であった。





キンダン川よりは河原が広くて左右の新緑を楽しむことができた、途中にナメ滝がありこれも良い。ただし川底は結構滑りやすく気をつけなくてはならない。最後に高さが2mほどの川廻しが出てくる。10mほどだろうが、四角く削られており上は林道が走っている。これをこの沢では楽しみにしていたので、写真をとりながら洞穴をぬけた。



抜けると終了点となるが少しこの先も散策してみるとコンクリートでできた遊歩道があり歩くことができたが、10分ほどで飽きてしまい、戻ってしまった。

車に戻り、また物売り間違えられないように装備を干さずにビニル袋にガツガツと収納して本日2度目の温泉である亀山温泉によって、待望の海鮮丼をいただいて帰路についた。

#### 《遊行時間》

三叉路先（駐車地点）→入渓点 8:35→8:52

入渓点→終了点 →9:51

終了点→三叉路先（駐車地点） →10:17

(了)